

Web配信用

感染症の予防及び まん延防止のための<訓練>

ケアの場面に応じた

① 個人防護具 (PPE) の選択・適切な使用

② 手指衛生



2023年4月

札幌市保健所医療対策室 疫学調整班 医療職チーム



COVID-19流行以降のPPE使用

この3年間、いつだれが感染してもおかしくない状況の中で...

陽性者・疑い者の対応時

日常のケア時



いわゆる
「フルPPE対応」



各施設の思い

- ・感染拡大、クラスター発生を防ぎたい
- ・濃厚接触者をつくらないように
- ・職員が安全に安心して働けるように
- ・その他、様々

これからの感染対策を考えるにあたって

2023年5月8日～COVID-19の感染症法上の位置づけ変更

⇒5類感染症へ

陽性者は分離しなくていい？

PPEはもう不要？

濃厚接触者の対応も不要？



「5類になるから感染対策も**緩和**してOK？」

毎日の体温測定もやめていい？

感染対策や各種対応を **見直し・変更** する**機会**に！

効果的かつ負担の少ない感染対策

COVID-19の
流行当初

- ・ どのような性質を持つ感染症なのか知見が少なかった
(感染経路、病気の特性、治療法、ワクチンなど)
→ 感染対策もあらゆる可能性を想定して対応



- ・ ワクチン、治療薬の導入
- ・ オミクロン株への置き換わり

- ・ 重症化する頻度は減少
- ・ 感染者・濃厚接触者は爆発的に増加
→ 介護現場にも大きな障害が発生



知見の蓄積

今

それぞれの施設の実情に合わせた、
“効果的かつ負担の少ない”感染対策を考え、実施できる状況へ

<参考資料> 第87回 (令和4年6月8日) 新型頃案ウイルス感染症対策アドバイザリーボード 館田先生提出資料
「効果的かつ負担の少ない”医療・介護場面における感染対策」

PPEに関連する様々な負担、例えば...

職員



着脱の手間



身体的負担



周知・指導

利用者



ケア内容や
時間の制限

コミュニケーションへの支障



不安増強、
認知機能面
への影響



施設



費用 

手配困難
備蓄の管理

保管場所の
確保



基本的感染対策の見直し・実施の考え方

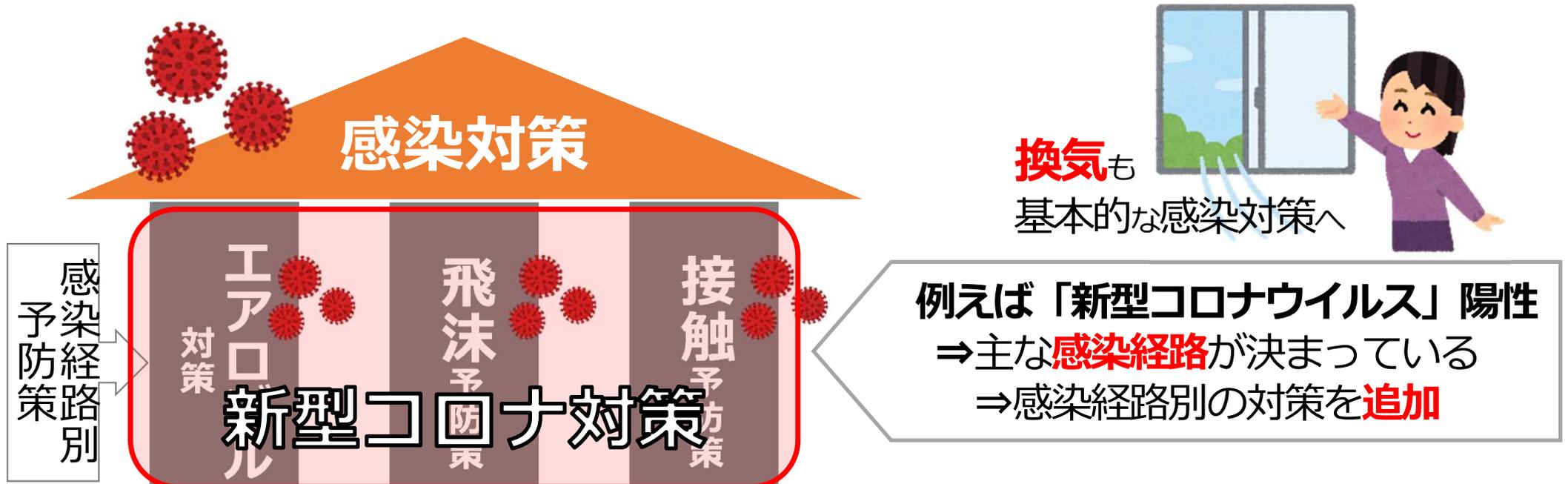
「基本的な感染対策の実施に当たっては、感染対策上の必要性に加え、**経済的・社会的合理性**や、**持続可能性**の観点も考慮して、改めて感染対策を検討する」

考慮に当たっての観点

- ウイルスの**感染経路等を踏まえた**期待される対策 (※) の有効性
※飛沫感染対策か、エアロゾル感染対策か、接触感染対策かなど
- 実施の手間、コスト等を踏まえた**費用対効果**
- **人付き合い、コミュニケーション**との兼ね合い
- 他の感染対策との重複・代替可能性 など

<参考資料> 令和5年3月31日 厚生労働省 事務連絡「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更後の基本的な感染対策の考え方について（令和5年5月8日以降の取扱い移管する事前の情報提供）別紙」

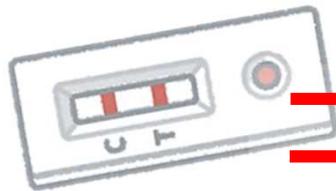
標準予防策 + 感染経路に応じた対策



標準予防策 = すべての人に行う感染対策

血液、体液、分泌物、排せつ物 (尿・便)、粘膜、傷のある皮膚には**感染性がある**と考え取り扱う

なぜ、すべての人に標準予防策か



コロナ(+) →

感染症と診断
された人

未検査の無症状
病原体保有者

潜伏期間
(これから発症)

検査で偽陰性
(-)

診断されて
いない人

- ▶ 未検査
- ▶ ウィンドウピリオド
- ▶ 未知の感染症

標準予防策としてのPPEの使用



<目的>

1. **感染性のある物質の曝露からケアする人を守る**
2. ケアや作業時に汚染された身体の部位や衣類を通しての**交差感染を防ぐ**

1人ケアする毎の使い捨てが原則

<選択> どのような汚染を受ける可能性があるか?

- 相手からのしぶきが飛んで顔や体が汚染される
- 排せつ物や嘔吐物に触れる、血液に触れる
- (それらのもので) 腕や体まで汚染される
- 相手の傷や粘膜に触る、自分の手に傷がある など



→ **汚染が予想される部分を防護**するPPEを選択

標準予防策

手指衛生

個人防護具 (PPE)

咳エチケット/呼吸器衛生

患者の配置

使用後の器具・物品の取扱い

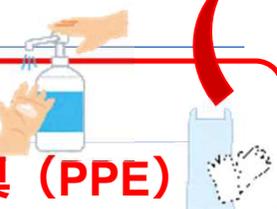
環境清掃

リネン類の取り扱い

安全な注射手技

腰椎穿刺時の感染対策

血液媒介病原体対策



感染経路に応じた対策としてのPPE使用

新型コロナ患者・疑い患者

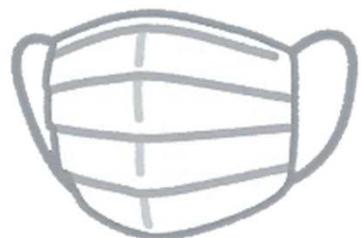
【感染経路】

飛沫感染、エアロゾル感染、接触感染

- ✓ サージカルマスクを着用し、ゴーグルやフェイスシールドで目を保護
(マスク、フェイスシールドは、汚染した場合や勤務終了時などに交換)
- ✓ 手袋とガウンは、患者および患者周囲の汚染箇所に直接接触する場合に装着
(患者および患者周囲の汚染箇所に直接接触しない場合は不要)
- ✓ エアロゾル発生手技を実施する場合や、激しい咳のある患者や大きな声を出す患者に対応する場合はN95マスクを着用

<参考資料> 厚生労働省 事務連絡 令和5年3月17日(3月29日最終改正) 「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴う医療提供体制の移行及び公費支援の具体的内容について」

口・鼻の粘膜を守る+飛沫の飛散防止



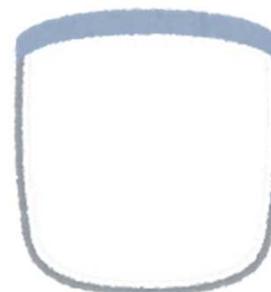
サージカルマスク

+エアロゾル感染対策



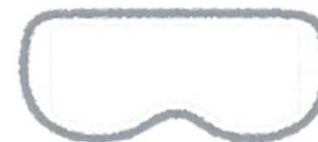
N95マスク

眼の粘膜を守る



フェイスシールド

または



アイガード・ゴーグル

衣類・体幹・腕の汚染防止



袖なしエプロン

汚染される可能性が
ある範囲を考えて選択



袖つきエプロン
・ガウン

手指の汚染防止



グローブ (手袋)

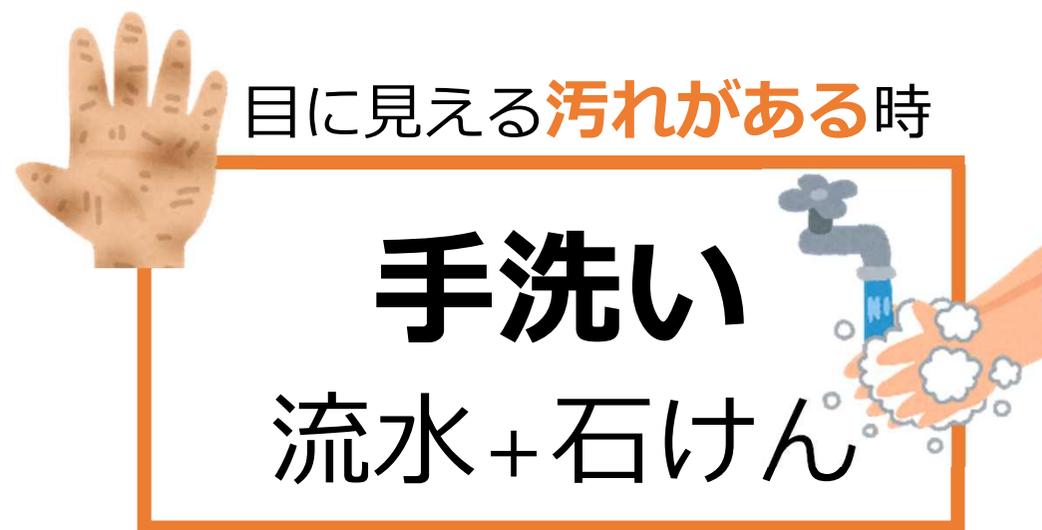
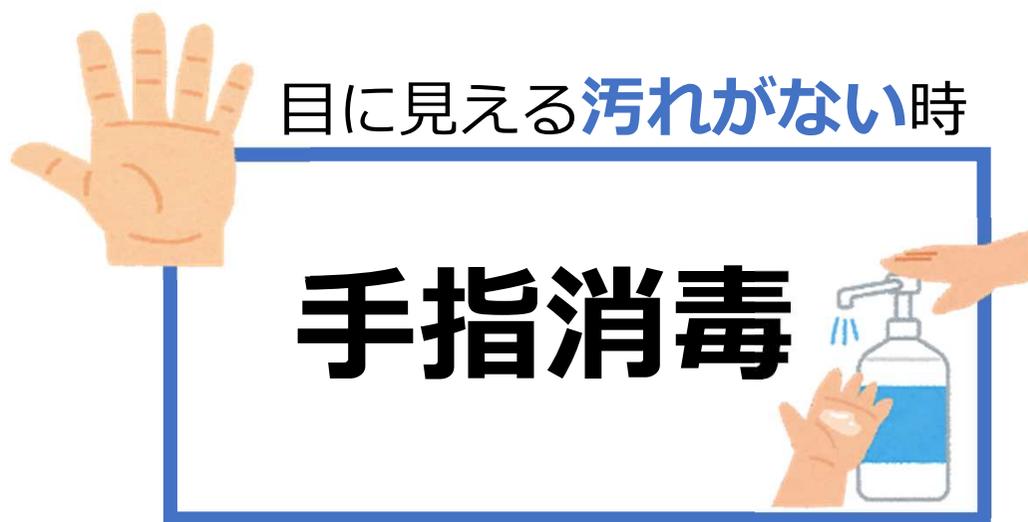
手指衛生



手指消毒剤
(or せっけん流水手洗い)

手指衛生

人の手を介した感染を防ぐ、最も重要な感染対策



手指が乾くまで**15秒**以上すりこむ

手指衛生を行うタイミング



- 各利用者に触れる**前**、触れた**後**

→ どんなケアをするか・したかに関わらず実施



特に意識

- 汚物や飛沫などはウイルスや菌を多くうつす原因になりやすい
 - ★ トイレや排せつケアの後（自分のトイレの後も）
 - ★ だ液や鼻汁、体液などに触れた可能性がある時（鼻かみやよだれを拭いたあと、食事・歯磨き介助の後など）
 - ★ 手袋、その他のPPEを外した後（手は汚れている）

手袋は手指衛生のかわりにはならない

- 口はウイルスや菌の入り口になる
 - ★ 食事や与薬介助の前、食品や食器など口に入るものを扱う前

<ここから訓練>

ケアの場面に応じたPPEの選択と手指衛生

これから提示するケアの場面について、
みなさんが各場面でケアを行う想定で、以下を考えてみましょう。

1. ケアする人に必要なPPEとして何を選びますか？
2. なぜそのPPEが必要ですか？（理由）
3. 一連のケアの中で、手指衛生はいつ行いますか？



ケアの場面 1 <食事介助>



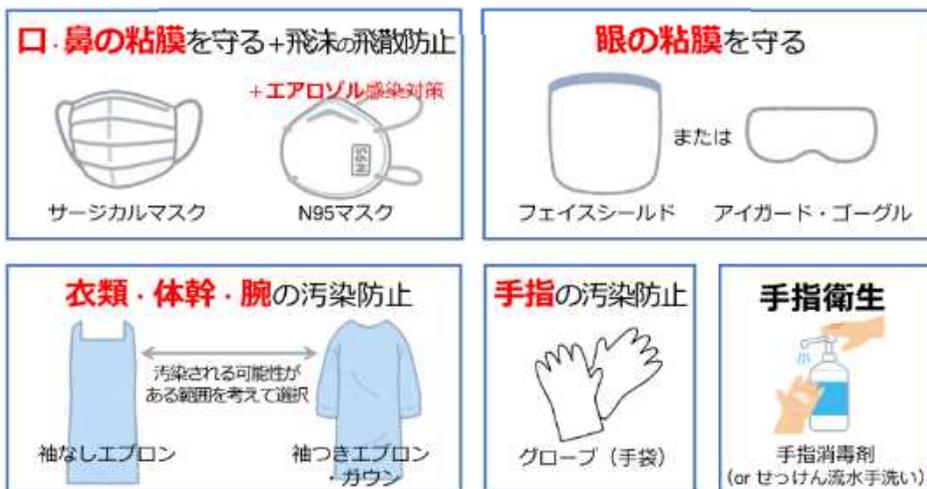
- 80歳代、女性
- 2日前に発熱し、コロナ抗原検査で陽性が判明
- 食事摂取は自力でできるが後半は介助が必要
- 口腔ケアはほぼ全介助、義歯洗浄も介助が必要
- 嚥下機能の低下があり、食事中的ムセが多い
- 難聴があるが、お話し好き



ケアの場面 1 <食事介助>



- 80歳代、女性
- 2日前に発熱し、コロナ抗原検査で陽性が判明
- 食事摂取は自力でできるが後半は介助が必要
- 口腔ケアはほぼ全介助、義歯洗浄も介助が必要
- 嚥下機能の低下があり、食事中的ムセが多い
- 難聴があるが、お話し好き



【解説】ケアの場面 1 ＜食事介助＞



- 食事介助や口腔ケア時には、利用者がマスクをできず、ムセや咳こみ・会話等で飛沫が飛散するため、ケア者は口・鼻と目の保護をします。※利用者に激しい咳がある場合や、概ね30分以上の長時間の介助になる場合などは、状況に応じてN95マスクの使用も検討します。
- 唾液や飛沫などに直接接触する可能性が高いので、手袋を使用します。
- 広範囲に飛沫の飛散が予測される場合は、エプロンやガウンの使用が望ましいです。特に、口腔ケアでは飛沫が飛散しやすいです。

☑

口・鼻の粘膜を守る+飛沫の飛散防止

+エアロゾル感染対策

サージカルマスク N95マスク

☑

眼の粘膜を守る

フェイスシールド アイガード・ゴーグル

または

状況により使用を検討

☑

衣類・体幹・腕の汚染防止

袖なしエプロン 袖つきエプロン・ガウン

汚染される可能性がある範囲を考えて選択

☑

手指の汚染防止

グローブ（手袋）

☑

手指衛生

手指消毒剤
(or せっけん流水手洗い)

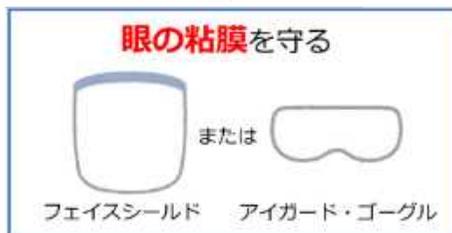
- **PPEをつける前、ケア後にPPEを外した後は最低限必要**です。
- その他、一連のケアの最中に汚染した手袋を交換する場合は、手袋を外した後に手指衛生をしてから新しい手袋をつけましょう。

ケアの場面2 <排泄介助：トイレ>



- 80歳代、女性
- 3日前に咳と咽頭痛を発症し、コロナ抗原検査で陽性が判明
- 尿意を訴えることが少なく、定期的にトイレ誘導を行っている
- 見守りで立ち上がりや自力歩行可能
- おむつ使用なし、24時間トイレ使用
- 時々、尿失禁がある
- マスクの着用には協力的

ケアの場面2 <排泄介助：トイレ>



- 80歳代、女性
- 3日前に咳と咽頭痛を発症し、コロナ抗原検査で陽性が判明
- 尿意を訴えることが少なく、定期的にトイレ誘導を行っている
- 見守りで立ち上がりや自力歩行可能
- おむつ使用なし、24時間トイレ使用
- 時々、尿失禁がある
- マスクの着用には協力的

【解説】 ケアの場面 2 ＜排泄介助: トイレ＞



- ポイントは「ケアの内容が見守り」であることと、「利用者がマスクを使用できる」点です。
- 利用者がマスクを使用することで飛沫が飛散せず、身体接触を伴う介助もないので、短時間ならケア者はマスクのみでも対応可能です。
- しかし利用者がいつマスクを外すか分からない状況であれば、あらかじめ目の保護（アイシールド等）をしておくことが望ましいです。
- 利用者や、利用者の身の回りの物品・環境に手で触れる可能性がある場合は、手袋の使用を検討します。

口・鼻の粘膜を守る+飛沫の飛散防止

+エアロゾル感染対策

サージカルマスク N95マスク

眼の粘膜を守る

フェイスシールド アイガード・ゴーグル

または

状況により使用を検討

衣類・体幹・腕の汚染防止

袖なしエプロン 袖つきエプロン・ガウン

汚染される可能性がある範囲を考えて選択

手指の汚染防止

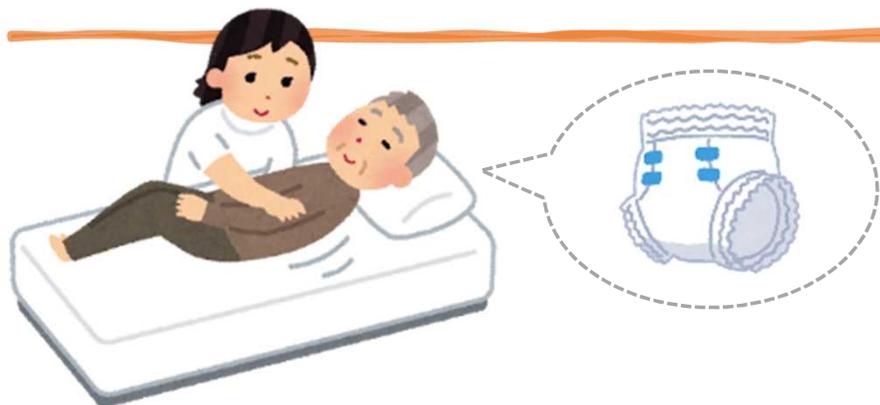
グローブ（手袋）

手指衛生

手指消毒剤
(or せっけん流水手洗い)

- 手指衛生は、PPEを付ける前、ケア後にPPEを外した後は最低限必要です。
- 手袋を使用しない場合は、利用者に触れた後、利用者の物品や周囲の環境に触れた後には、必ず手指衛生をします。

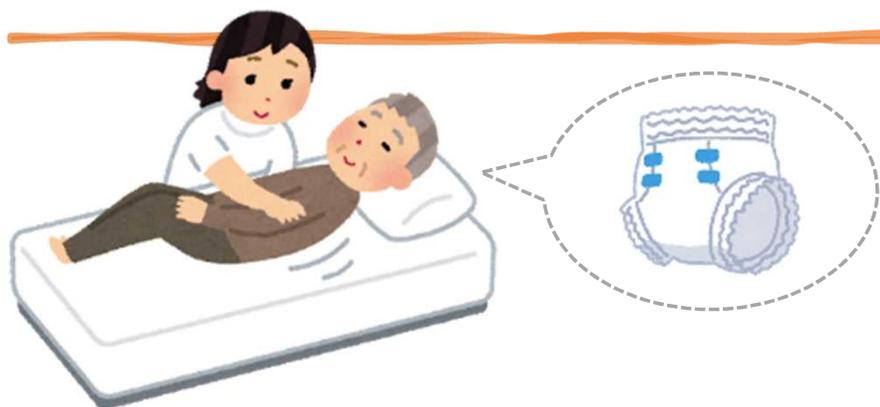
ケアの場面3 <排泄介助：おむつ交換>



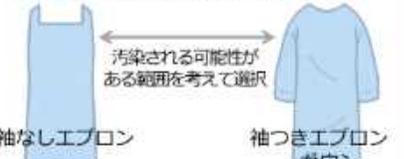
- 90歳代、男性
- 昨日発熱があり、コロナ抗原検査で陽性が判明
- ADLは全介助
- 尿便失禁あり、水様の下痢が続く
- 24時間おむつ使用
- おむつ交換や陰部洗浄はベッド上で行っている
- マスクの着用の協力が得られない



ケアの場面3 <排泄介助：おむつ交換>



- 90歳代、男性
- 昨日発熱があり、コロナ抗原検査で陽性が判明
- ADLは全介助
- 尿便失禁あり、水様の下痢が続く
- 24時間おむつ使用
- おむつ交換や陰部洗浄はベッド上で行っている
- マスクの着用の協力が得られない

<p>口・鼻の粘膜を守る+飛沫の飛散防止 +エアロゾル感染対策</p>  <p>サージカルマスク N95マスク</p>	<p>眼の粘膜を守る</p>  <p>フェイスシールド アイガード・ゴーグル</p>	
<p>衣類・体幹・腕の汚染防止</p>  <p>袖なしエプロン 袖つきエプロン・ガウン</p> <p>汚染される可能性がある範囲を考慮して選択</p>	<p>手指の汚染防止</p>  <p>グローブ（手袋）</p>	<p>手指衛生</p>  <p>手指消毒剤 (or せっけん流水手洗い)</p>

【解説】ケアの場面3 ＜排泄介助： おむつ交換＞



- おむつ交換時には、利用者のマスク使用の可否に関わらず、排泄物の飛散や陰部洗浄によるしぶきが飛散する可能性があります。
- そのため、ケア者は**口・鼻と目の保護**をします。※利用者に激しい咳がある場合や、概ね30分以上の長時間の介助になる場合などは、状況に応じてN95マスクの使用も検討します。
- 利用者の体や、排泄物に直接触れる可能性が高いため手袋、体や衣服にも汚物の付着や飛散が予想されるためエプロンを使用します。
- 大量の下痢や、抱きかかえが必要な場合は**袖付きのガウン**の使用も検討します。

☑️

口・鼻の粘膜を守る+飛沫の飛散防止

+エアロゾル感染対策

サージカルマスク N95マスク

☑️

眼の粘膜を守る

フェイスシールド アイガード・ゴーグル

または

状況により使用を検討

☑️

衣類・体幹・腕の汚染防止

袖なしエプロン 袖つきエプロン・ガウン

汚染される可能性がある箱皿を考えて選択

☑️

手指の汚染防止

グローブ（手袋）

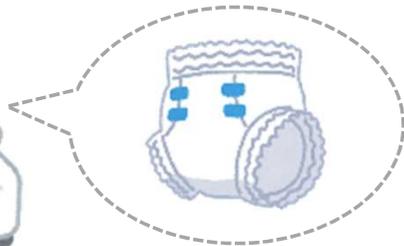
☑️

手指衛生

手指消毒剤
(or せっけん流水手洗い)

- 手指衛生は、PPEを付ける前、ケア後にPPEを外した後は最低限必要です。
- その他、一連のケアの最中に汚染した手袋を交換する場合は、手袋を外した後に手指衛生をしてから新しい手袋をつけましょう。

ケアの場面3 <排泄介助：おむつ交換>



- 90歳代、男性
- ~~昨日発熱があった~~
- ~~陽性が判明~~

陽性者でなく
感染を症状もない
場合は？

口・鼻の粘膜を守る+飛沫の飛散防止
+エアロゾル感染対策

サージカルマスク N95マスク

眼の粘膜を守る

フェイスシールド または アイガード・ゴーグル

衣類・体幹・腕の汚染防止

袖なしエプロン 袖つきエプロン・ガウン

汚染される可能性がある範囲を考慮して選択

手指の汚染防止

グローブ（手袋）

手指衛生

手指消毒剤
(アルコール流水手洗い)



状況により使用を検討

標準予防策としての選択

➡使用するPPEは同じ

おわりに

- COVID-19の5類感染症への移行にあたり、いま優先して検討・調整すべき他の事項も多々ある

➡PPE関する見直しは、各施設で無理なく取り組めるタイミングで

<効果的な取り組みのポイント>

個々の職員がケアの場面でその都度、必要なPPEを判断して正しく使用することは難しい

➡各施設での使用基準を、ある程度「標準化」しておく

例えば

ケア手順書、感染対策マニュアル、
感染症発生時の業務継続計画 (BCP) などに落とし込み
職員全員で共有し、いつでも確認できるようにする

